

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

| | | |
|---------------|--------------------------|------|
| 団 体 名 | 特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク | |
| 施 設 名 | 第一生命ホール | |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 公演事業、人材養成事業、普及啓発事業 | |
| 内定額(総額) | 9,663 | (千円) |
| 公 演 事 業 | 7,679 | (千円) |
| 人 材 養 成 事 業 | 598 | (千円) |
| 普 及 啓 発 事 業 | 1,386 | (千円) |

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|--------------------------------|---|-------------------------------------|--|----------|-------|
| | | 主な実施会場 | | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | ロビーでよちよちコンサート | R1. 5. 28・29 R1. 10. 3・4 | 3回目は新型コロナウイルスの影響のため延期 第一生命ホールロビー | 親子（お子様0歳6か月から3歳）でロビーで輪になって音楽を楽しむ 出演：松谷萌江/田中愛/桃原健一/永井綾子/齋藤綾乃他 | 目標値 | 720 |
| | | | | | 実績値 | 564 |
| 2 | 音楽と絵本コンサート | R1. 9. 23 | 第一生命ホール | 親子（お子様4歳以上）で音楽と絵本「おまえ うまそうだな」を楽しむ。 出演：中川賢一/クワチュール・ペー/鶴木絵里 | 目標値 | 480 |
| | | | | | 実績値 | 621 |
| 3 | クリスマス・オーケストラ・コンサート | R1. 12. 8 | 第一生命ホール | 親子（お子様4歳以上）で指揮者無しのオーケストラでクリスマスの曲から交響曲まで楽しむ 出演：ARCUS（アルクス） | 目標値 | 1,000 |
| | | | | | 実績値 | 1,147 |
| 4 | 子育て支援コンサート | 新型コロナウイルスの影響のため中止 | 第一生命ホール | 親子（お子様4歳以上）で音楽と絵本「5ひきのすてきなねずみ おんがくかいのよる」を楽しむ 出演：浜まゆみ/中川賢一/田村緑/大森智子/磯絵里子/神谷未穂/エマニュエル・ジラル | 目標値 | 500 |
| | | | | | 実績値 | 0 |
| 5 | 645コンサート | R2. 2. 5 | 第一生命ホール | ジャズ&ボサノヴァのコンサート 出演：小野リサ/フェビアン・レザ・パネ/伊藤ハルトシ | 目標値 | 420 |
| | | | | | 実績値 | 697 |
| 6 | トリトン晴れた海のオーケストラ | R1. 6. 29、R1. 11. 30 | 第一生命ホール | ベートーヴェン・チクルス交響曲全曲演奏会Ⅲ、Ⅳ 出演：トリトン晴れた海のオーケストラ(コンサートマスター矢部達哉) | 目標値 | 960 |
| | | | | | 実績値 | 1,302 |
| 7 | 室内楽の魅力 | R2. 2. 15 R2. 3. 4は新型コロナウイルスの影響のため中止 | 第一生命ホール | 室内楽ホールで名手の音楽を楽しむ 出演：(R2. 2. 15) 小山実稚恵/矢部達哉/宮田大、(R2. 3. 4) 白井光子&ハルトムート・ヘル | 目標値 | 880 |
| | | | | | 実績値 | 659 |
| 8 | 室内楽ホール de オペラ 林美智子の「ドン・ジョヴァンニ」 | 新型コロナウイルスの影響のため中止 | 第一生命ホール | 室内楽ホールのサイズ・音響を活かしたオリジナル台本によるオペラ 出演：林美智子/黒田博/澤畑恵美/望月哲也/池田直樹/加来徹/鶴木絵里他 | 目標値 | 880 |
| | | | | | 実績値 | 0 |
| | | | | | 目標値 | |
| | | | | | 実績値 | |
| | | | | | 目標値 | |
| | | | | | 実績値 | |

2. 自己評価

(1) 妥当性

| 自己評価 |
|---|
| <p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> |
| <p>当団体のビジョンは「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッションは「音楽によるコミュニティの活性化。音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」である。地域特性としては、東京臨海都市の人口急増地域であり、特に年少人口を有するファミリー層の増加が顕著、地域ネットワークが希薄であることから、まちづくりが急務の課題となっている。</p> <p>このミッションと地域特性に基づき、「公演事業」「人材養成事業」「普及啓発事業」を組み立て、当初の予定通り事業を進めることができた。ただ「公演事業」「人材養成事業」では、新型コロナウイルスの影響により、2020年2月下旬以降の事業が中止・延期となった。</p> <p>「公演事業」では、0歳からホールに入場できるようステップを踏んでシリーズを組み立て、子どもからオフィスワーカーまで、それぞれ対象とした聴衆に楽しんでもらうことができた。関連企画として、中央区と連携した講座の開催やリハーサル見学なども行い、地域住民に理解を深めて鑑賞してもらう工夫ができた。</p> <p>「人材養成事業」では、「アウトリーチセミナー」による若手演奏家育成と、地域文化リーダーであるサポーター（ボランティア）育成のための事業を実施、また「これからのアウトリーチを考える」をテーマにしたフォーラムを開催し、全国からの参加者とともに有益な議論ができた。</p> <p>「普及啓発事業」では、「アウトリーチ」として小学校、高校、幼稚園・保育園、福祉・医療施設で予定どおり実施することができ、ホールに来られない方へ音楽をお届けすることができた。</p> |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> |
| <ul style="list-style-type: none">・年少人口が増えている地域特性にあわせ、公演事業は充実した子ども向け企画（0歳から3歳「ロビーでよちよちコンサート」、4歳以上には、小学生体験つきの「クリスマス・オーケストラ・コンサート」、また子育て中の親対象の「子育て支援コンサート」）を用意しているが、家族での来場を想定しチケット価格は低廉に、また託児も用意する必要がある。内容はオリジナル企画を毎年工夫を重ねて創出しており満足度は高いが制作費はかかる。チケット完売でも賄えない経費を助成を活かして継続させ、年齢に応じた来場に結びついている。・地域の誇り「トリトン晴れた海のオーケストラ」は指揮者なし室内楽ホールならではの臨場感、集中力、演奏の質の高さが、高く評価されているが、晴海トリトンスクエアからの協賛および約700席のホールのチケット代だけで経費の捻出は難しい。・アウトリーチは、小学校は教育委員会を通じての予算補助はあるものの、寄付金や個人・法人会費を充てても出演料、楽器運搬経費など全額はカバーできないので、助成があることで中央区のほぼすべての小学校で4年生に継続実施していることに意義がある。・アウトリーチ実施には演奏者側もスキルが必要で、そのため若手演奏家のためのアウトリーチセミナーを9年間継続、セミナー修了生がアウトリーチに行ったり、ホール公演に出演したり、と良い循環が生まれている。・外部有識者で構成される評価委員からは「社会的にも大きな評価を得るとともに、完売公演がある等好調を維持し、良好なパフォーマンスであった」と評価されており、文化的、社会的、経済的意義があるものと考えられる。 |

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業指標達成状況

1. 公演毎のチケット販売数の達成

事業番号1: 564枚 (目標 480枚) 事業番号2: 578枚 (目標 480枚) 事業番号3: 1,086枚 (目標 1,000枚)
事業番号5: 561枚 (目標 420枚) 事業番号6: 1,077枚 (目標 960枚) 事業番号7: ②634枚 (目標 480枚)
と、事業番号1、2、3、5、6、7の②は目標を達成した。中止になったものの、事業番号4は547枚 (目標 500枚) と目標を達成していた。

2. 事業番号6・7・8におけるU25券 (旧ヤング券) 売上枚数の達成

事業番号6: 1回目34枚、2回目25枚 (目標: 各90枚) と小中高大学生向けリハーサル見学会を実施したが、その時点ですでにチケットは完売しており、見学によってU25券の購入にはつながらなかった。事業番号7: ②7枚 (目標 50枚) もチケットが発売開始早々に完売となり、25歳以下が購入できなかったと思われる。

3. 事業2・3・4 (4歳以上入場可のホール公演) における、事業1 (0~3歳親子向けロビー公演) の申込者占有率目標35%であったが、令和元年度は7~16%であった。29年度は15%~35%であったが、35%を記録した30年度「音楽と絵本コンサート」は0~3歳児も入場可の公演であったもの。元年度は、28年度 (10%~15%) と同様の水準であった。

4. 公演共通アンケートによる満足度: 「本日の公演はいかがでしたか?」 (5段階評価) に対する「大変満足」「満足」の割合が、事業5で96% (目標95%)、事業6で100% (目標95%)、事業7②で100% (目標95%) (無回答を除く) といずれも目標を達成した。

⑤チケットデスク顧客分析による購入者に対するリピーター割合: 69% (目標: 65%) と達成した。

これまでの実績は平成27年60%、28年62%、29年57% (新シリーズスタートにより新規購入者が多かったため)、30年60%となっており、チケット券売数も増やした上でリピーター割合を上げることで、ファンの聴衆が増えている状況であることがわかる。

●人材養成事業指標達成状況

1. セミナー生によるアウトリーチ実施回数: 小学校で3回 (中央小、京橋築地小、阪本小) と目標 (3回) を達成した。

2. セミナー修了生によるアウトリーチ実施回数: 7回と目標 (5回) を達成した。

3. 小学生への共通アンケートによる満足度: すべて達成

質問「本日のコンサートはどうでしたか」に対する答え「とてもよかった」と「よかった」の割合96.0% (目標95%) 質問「コンサートを聞いて今までより音楽が好きになりましたか」に対する答え「とても好きになった」「好きになった」の割合89.1% (目標87%) 質問「もっとコンサートに行ってみたいと思いましたか」に対する答え「とても思った」「すこし思った」の割合87.4% (目標85%)

4. 外部講師による接遇研修へのサポーター参加数: 12名と目標 (10名) を達成した。

●普及啓発事業指標達成状況

1. アウトリーチ実施回数: 計31回と目標 (28回) を達成した

アウトリーチ実施 (小学校20回、高校1回、幼稚園・保育園5回、福祉施設・医療施設5回) 計31回

2. オープンハウス来場者数847名 (目標1,000名)

なお、ホール外エリア (グランドロビー) で実施した「楽器工房」での楽器作り参加者: 400名

・オープンハウスの来場者アンケートによる初めて第一生命ホールに来た割合56% (目標: 45%)

・オープンハウスの来場者アンケートによる地域住民割合 (中央区と江東区豊洲地域在住の割合) 81% (目標: 75%)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●公演事業

収入：予算 18320 千円 実績 14108 千円 (77.0%) * 予算策定時より入場料収入 4043 千円減

支出：予算 26279 千円 実績 21424 千円 (80.3%) * 予算策定時より公演製作費 4855 千円減

(補足)

ロビーでよちよちコンサート (1・2 回目)、トリトン晴れた海のオーケストラⅢ、Ⅳ、645 コンサート、室内楽の魅力 (小山実稚恵の室内楽) が完売。左記および、音楽と絵本コンサート、クリスマス・オーケストラ・コンサートが入場料収入目標を達成。しかしながら、新型コロナウイルスの影響のため 2020 年 2 月以降の公演が中止・延期となったことで、事業全体としては収入・支出ともに予算より減少した。なお、対象を実施した公演に絞った場合、完売公演もあり収入実績は予算を上回り、一方支出については経費抑制に努めたことにより、支出実績は予算を下回る結果となった。

●人材養成事業

収入：予算 0 千円 実績 0 千円

支出：予算 1591 千円 実績 1348 千円 (84.7%) * 予算策定時より 243 千円削減

(補足)

シンポジウム「アウトリーチを考える」の運営費用を抑えたことにより支出が予算より減少した。

●普及啓発事業

収入：予算 780 千円 実績 890 千円 (114.1%) * 予算策定時よりアウトリーチ実施校の増加による補助金の追加

支出：予算 3839 千円 実績 4225 千円 (110.1%) * 予算策定時よりアウトリーチ実施校の増加による出演料の増

(補足)

小学校等アウトリーチの追加実施により、補助金、PTA 協賛金の収入あり。

上記追加により、出演料、和楽器運搬費等の製作費の追加あり。

●事業期間

新型コロナウイルスの影響のため 2020 年 2 月以降の事業が中止・延期となったことを除けば、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業とも計画通りの事業期間で実施できた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

●「子どもといっしょにクラシック」シリーズは、いずれもスタッフと出演者が共に打ち合わせを重ねて創るオリジナル企画。

・10年前スタートの「ロビーでよちよちコンサート」は0歳から3歳児向けで、乳幼児の集中力に視察に訪れる他ホールや演奏家、保育福祉関係者が一様に驚く、ロビーで輪になって行う日本初の先駆性を持ったプログラム。

・15年以上継続の「子育て支援コンサート」はメインターゲットが子育て中の親という、こちらも先駆的企画。第1部、両親がホールでクラシックコンサートを楽しむ間、子ども達は、年齢別に分かれた4つの音楽スタジオで音楽体験をする。第2部は、親子揃って、絵本を舞台上のスクリーンに映し演奏とともに楽しむ「音楽と絵本」を聴く構成。絵本の選定から音楽と朗読の構成、音楽スタジオの内容まで、演奏家とスタッフで新しく創造する。R1年度はチケットは完売するも、新型コロナウイルスの影響のため中止となった。

・4歳以上向け「音楽と絵本コンサート」は新作「おまえ うまそうだな」を制作した。

●「トリトン晴れた海のオーケストラ」（コンサートマスター矢部達哉）は、ベートーヴェン生誕250年となる2020年に向けていち早く「ベートーヴェン・チクルス」を開始、H30年度のNHK-FM「ベストオブクラシック」で放送されたチクルスIが、英国BBC Radio 3（芸術系番組）で放送され、その週のベストオブBBCラジオでも取り上げられるなど大きな反響があった。地域の小学生～大学生に向けたリハーサル見学会も行った。

●H30年度に新規事業としてスタートさせた、人気ピアニスト小山実稚恵による室内楽シリーズ。R1年度はピアノトリオを企画。中央区民カレッジと連携し、講座とホール公演の鑑賞を組み合わせ、ホール周辺のクラシックファンの裾野拡大にも取り組んだ。

●普及啓発事業の小学校アウトリーチでは、音楽教諭に学習進捗状況を確認の上、学校に合わせたプログラムを演奏家と制作。スタッフが必ず事前リハーサルにも参加し、内容の向上をはかっている。

●「オープンハウス2019」では、学生から社会人まで多様な人材がプロジェクトサポーター（ボランティア）として、スタッフとともに企画から当日の運営まで約5ヶ月活躍した。さらに音大生によるインターン生も主体的にかかわるなど、アートマネジメント人材育成もねらっている。加えて、当日は94名のサポーター（ボランティア）が関わり、地域住民同士の交流の場ともなっており、来場者だけでなく運営側としても多くの市民を巻き込んだ企画である。

●演奏家のための、アウトリーチに特化した「アウトリーチセミナー」は先導性あり、9年継続。講師はヴァイオリニスト松原勝也氏で、小学生が弦楽四重奏曲を高い集中力を持って聴くことのできるプログラムを毎年新たに生み出している。

●アウトリーチ担当スタッフは4年～10年以上の経験があり、演奏家と新しい企画を生み出すことに精通している。対外的にも、音楽大学でアウトリーチに関する講義を行うなどノウハウの提供に努めた。

●トリトンアーツが創設から19年にわたって取り組んできたアウトリーチの経験を踏まえて、初の試みとして「これからのアウトリーチを考える」をテーマとしたフォーラム「音楽がヒラク未来～音楽の力と民間ホールの役割」を開催した。ホール担当者、若手演奏家、音楽大学関係者等とともに、民間・公共問わずホールのあるべき姿、社会に果たすべき役割を考える貴重な場を提供した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

●オープンハウスの開催

年に1回ホールを無料で開放する「オープンハウス」を2001年のホールオープン時から開催、グランドロビーでのイベントも含めて1000人以上の来場者に気軽に音楽を楽しんでもらっている。地域のサポーター（ボランティア）がプロジェクトサポーターとして関わり、数か月かけてスタッフと運営を準備し、当日は100名近いサポーターをまとめていくなど地域の人材育成ともなり、音楽を通じたまちづくりに寄与している。

●顧客アンケートの活用

- ・主催公演における顧客アンケートでは満足度98.8%を獲得した。
- ・地域顧客の来場割合はオープンハウスでは81%、子どもといっしょにクラシックシリーズでは平均68%であり、地域の文化芸術の発展につながっている。
- ・アンケートによるニーズ把握と改善

例えば「ロビーでよちよちコンサート」のアンケートで「早い時間の開催のみでは通勤ラッシュに重なる」というご意見から、どの年齢も参加時間が選べるようにする、などより良い企画、運営に活かしている。

●中央区文化生涯学習課との連携企画の実施

- ・5年前から継続実施している中央区民カレッジでは4回講座で、講義、楽器体験、公演鑑賞を組み合わせたプログラムとしている。
- ・30年度からは、中央区民カレッジデビュー講座と、ホールで開催する東京国際合唱コンクール関連企画として中央区の親子学習会（講師は、共催している東京混声合唱団）を受託、行政と密に連携し、地域の文化芸術の発展に寄与している。

●小中高大学生向けリハーサル見学会実施

・「音楽のある街」の象徴として立ち上げた「トリトン晴れた海のオーケストラ」では、リハーサル見学会を実施、プロデューサーによるミニ講座とともにオーケストラに対する理解を深めてもらった。英国BBCラジオでも取り上げられるなど世界的に評価されることで地域の誇りとなっている。

●広報誌による情報発信

・「トリトンアーツ通信」を年10回発行し、アウトリーチ先の小学校、保育園、幼稚園等に児童、園児数分布し、保護者への告知を行った実際に「トリトンアーツ通信」を見て子ども向けの公演やワークショップなどへ応募したという例は多い。小学校で行ったアウトリーチのレポートなども掲載している。小学生向けの作曲家解説（連載）が好評。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

●組織運営

・すべての事業活動は「事業計画」に基づいて行われ、「理事会」（年4回開催）、運営会議（月1回開催）、企画分科会（月1回開催）においてPDCAを回している。また、外部の有識者からなる「評価委員会」を運営し、トリトンアーツの活動を第三者視点で評価・提言頂き、事業活動にフィードバックしている。

●スタッフ人材育成

・原則正社員採用をしており、チケットデスク業務のルーティンワークやお客様対応を経験し、制作や広報担当にコンバートしている。年間3回の定例面談を通して組織目標からブレイクダウンした個人目標の達成を目指している。少人数体制につき体系だった研修が難しいため、各自のスキルアップを外部講習、セミナーを活用し、経費補助を行っている。

●サポーター（ボランティア）育成

様々な属性の登録サポーター75名が適材適所で活動した。外部講師による接遇研修も毎年実施している。また別途公募したオープンハウスのプロジェクトサポーター8名は7月本番まで5か月に亘り、イベントの各コーナーの責任者として活躍した。

●劇場・音楽堂等間のネットワーク形成

・「これからのアウトリーチを考える」をテーマとしたフォーラム「音楽がヒラク未来～音楽の力と民間ホールの役割」を開催し、全国からホール関係者、演奏家、音楽大学関係者などアウトリーチに関心のある多くの方々の参加を得て、他ホール、音楽大学等の関係者とのネットワーク形成が図られた。

●財政支援状況とフォロー

・個人会員（年会費1万円、NPO議決権あり）推移

H29年度末 736名 H30年度末 733名 H31年度末 716名

・法人会員（年会費1口10万円、エステルハージ会員5口以上、ラズモフスキー会員2口以上）推移

H29年度 47社 2310万 H30年度 52社 2440万 H31年度 53社 2380万

・個人寄付者寄付金額推移

H29年度 186名 264万 H30年度 172名 186万 H31年度 170名 242万

・法人寄付・協賛金推移

H29年度 5005万 H30年度 4910万 H31年度 5160万

・助成金推移（文化庁含む）

H29年度 826万 H30年度 990万 H31年度 987万

・上記支援者のフォロー

活動状況を掲載したフリーペーパー「トリトンアーツ通信」を年10回発行し、レターとともに送付している。また年間の事業報告書、評価報告書をウェブで公開することと併せ、法人会員に送付している。大口法人寄付者には毎月の定例会議にて活動状況を詳細に報告している。